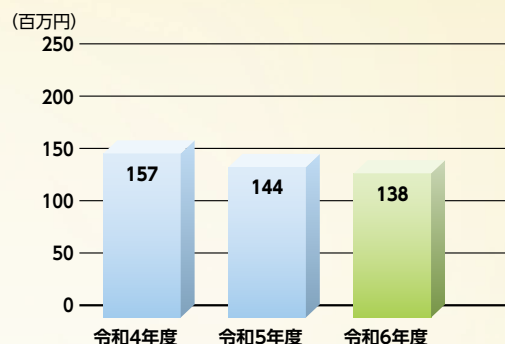


決算概況

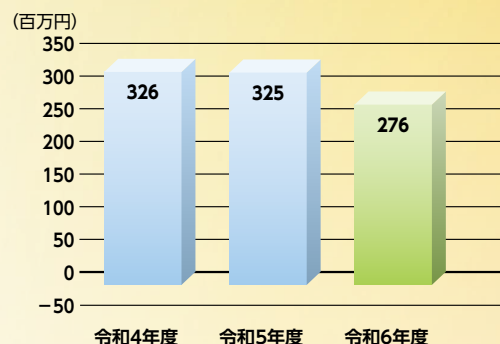
当期純利益



当期純利益は、経常利益に特別損益や法人税等および法人税等調整額を加減した最終の利益です。

令和6年度は、市場金利の上昇により預け金利息や有価証券利息配当金等が増加し、預金利息の増加や給与のベースアップ等により経費が増加しましたが1億3千8百万円を計上することができました。

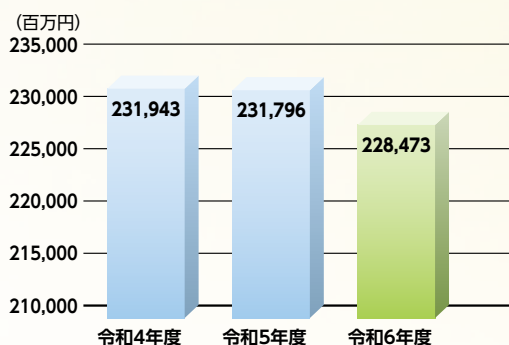
コア業務純益



コア業務純益は、本業での収益力を表す指標です。

令和6年度は、市場金利の上昇等により、資金運用収益の増加を資金調達費用の増加が上回り、2億7千6百万円を計上することができました。

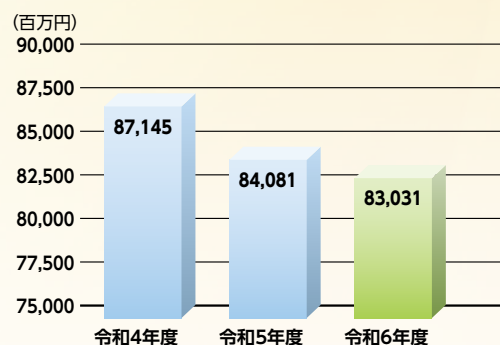
預金残高



預金残高は、コロナ禍で滞留していた個人預金が消費に回ったことや相続による他行流出や定期性預金の払戻しが増加したことなどにより減少しました。

令和6年度は前期より33億2千3百万円減少し、2,284億7千3百万円となりました。

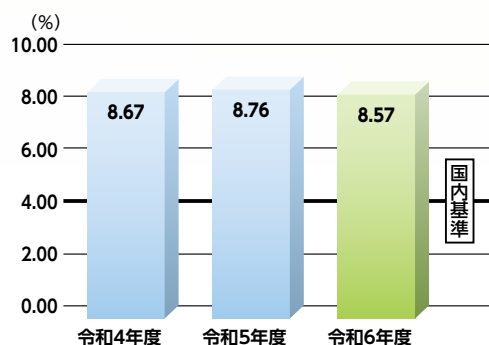
貸出金残高



貸出金残高は、新型コロナウイルス感染症対応資金の元金返済が進み減少しました。資金使途別では、建物建設資金や、老人介護施設関連資金などの需要に応じて増加しました。

令和6年度は前期より10億4千9百万円減少し、830億3千1百万円となりました。

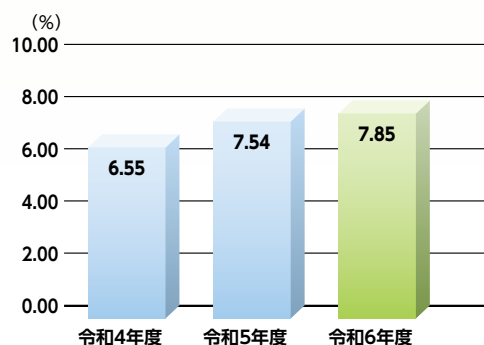
自己資本比率



自己資本比率は金融機関の健全性を表す指標で、損失が発生する可能性のある資産に対する自己資本の割合のことです。国内のみで営業する金融機関の場合、4%以上の比率を維持することが法律で定められております。

令和6年度の自己資本比率は8.57%に低下いたしましたが、国内基準を大きく超える水準であり、依然として高い健全性を確保しております。

不良債権比率



令和6年度の金融再生法に基づく開示債権の不良債権比率は7.85%で、前期より0.31ポイント低下しました。なお、不良債権のうち87.14%は担保・保証や貸倒引当金等によって保全されております。

また、不良債権額から保全額を差し引いた実質的な不良債権は貸出債権全体の1.00%であり、十分な保全がなされております。

はじめに

地域を応援する
取り組みコンプライアンス等
への取り組み

各種サービスのご案内

ガバナンスの
充実状況

資料編